見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

November 2021 vol.91

November

S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

◆ 旧今市場踏切

所在地：津島市今市場町

交　通：名鉄津島線「津島」駅 南 すぐ

　海部地域を中心に広がる海抜ゼロメートル地帯では、昭和 34(1959) 年の伊勢湾台風で、大きな浸水被害が発生しました。津島市は海岸線から 10km 以上も離れていますが、台風から 1 か月が経過した 11 月始め頃でも、まだ一日の最高水位が 1m に達していました。名鉄津島駅の南、今市場の踏切があった場所（1968 年に高架化より踏切は廃止）では、台風後、毎日水位が計測されていました。津島市史に残る記録から、今市場の踏切地点での水位を抜き出したものが下のグラフです。以下、被災後の状況を抜粋します。

9 月 29 日：海岸堤防の決壊により伊勢湾と直接つながり、潮の干満によって水も増減し、加えて木曽川の水が堤防の決壊口から流れ込み、北部へどんどん逆流している。早急に海部郡南部地区に堤防を設けない限り、この水は永久に引かない。津島市内も依然増水し、床下浸水個所は増加する一方で、一部は床上浸水が出て、同市第一の繁華街天王通りの大半はじめ名鉄津島駅も浸水、全市の機能は完全にマヒ状態だ。津島市の中心街天王通りが今では波打際だ。

10 月 3 日：今日 3 日は満潮のピーク。悪条件が重なった津島市内はますます水かさが増し、浸水民家は恐怖のどん底。

10 月 8 日：秋晴れを取り戻した 8 日、この日からかなりの減水、被災者たちはみんなホッとした表情。

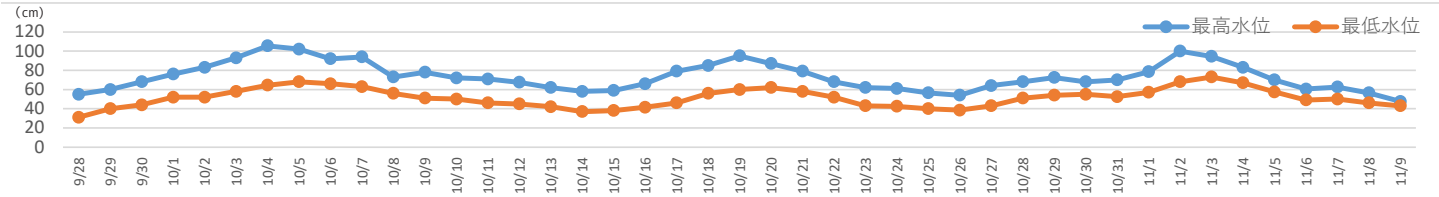
10 月 16 日：台風以来水びたしのままの津島市、海部郡地方は 16 日朝から再び水位が増して来た。天王通りも市役所前から駅にかけて再びひざ近くまでの濁水に覆われた。

10 月 19 日:19 日は水害以来 2 回目の大潮で、愛知県海部、津島地方の浸水地域では朝の潮から満干に神経をとがらし…。10 日頃から地ハダを見せた津島駅前付近も再び水浸しとなり、同駅発名古屋行電車も昼間は不通。

10 月 24 日：台風以来、水につかり通しだった津島市や海部郡で 24 日午前中、小潮の干潮で大幅に減水し、町や村に久しぶりの明るさが戻った。津島市の中心街天王通りもわずかに水を残した程度に引き…。この減水は 2,3 日続くが、月末から再び大潮で増水するものとみられている。

10 月 29 日：台風以来 3 度目の大潮を迎えた津島市、海部地方の浸水地区は、29 日朝からまた増水した。この増水は月末から来月初めにかけて続くが、浸水地区の人たちは来月 10 日ごろに予定されている尾西作戦（伊勢湾台風後に行われた堤防仮締切の応急復旧工事）の完了によって、この大潮を最後に水が消えるのを心待ちにしている。

11 月 4 日:2 日の大潮と雨で津島市内の浸水は(裏面に続く)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

災害以来の水位で、天王川公園周辺を除いて全市の９割以上が水づかりになった。

11 月 9 日：8 日の朝以後の水深の変化は約 3cm 程度であってほとんど上下がなくなったような感をうける。締切工事がほとんど完成に近づいたと考えられます。

11 月 11 日：尾西作戦は終わった。海部北部は 22,3 日ごろには完全に排水できる見通し。津島市では台風以来悩まされ続けてきた潮の干満からやっと逃れることができた。

11 月 13 日：ヒザまで水につかっていた津島市の天王通りや藤浪町、良王町付近では昼過ぎにはアチコチに黒い地はだが見えはじめ…。

津島市史の記録を振り返りながら水位のグラフを眺めると、あらためて、台風により海岸堤防が破堤し、海とつながり、まさに潮汐の影響（満潮・干潮、大潮・小潮）を受けながらの１か月余りの生活であったことがわかります。11 月に入ると、最高水位と最低水位の差がなくなってきますが、尾西作戦が完了し堤防が締め切られ、満潮と干潮の差がなくなり、すなわち潮の干満の影響を受けなくなったこともわかります。その後は、水位そのものの記録はありませんが、毎日、数 cm 程度ずつ水位が下がっていく様子が記録されており、堤防締切後は順調に排水作業が進んでいったようです。

津島市史には、最後に昭和 35 年 7 月 17 日の記事があります。「津島土木出張所は、昨年の伊勢湾台風のさい長期間浸水した海部、津島の各所に『伊勢湾台風浸水位』と書いた標識を設置した。津島市藤里町は中心部だが、平均 1m の水位があった。初めて訪れる人たちは”本当にここまで水があったのですか”と疑問に思うほど。しかし体験者は、この標識を感慨深そうに眺めている。」まさに、疑問に思うような浸水が、潮汐の影響を受けながら１か月以上も続いていたのです。現在も、海部地域を中心に海抜ゼロメートル地帯が広がっています。水害だけではなく、地震で堤防が崩れた場合でも、再び長期間浸水する恐れがあります。地域のことをよく知っておく必要がありますね。

今市場の踏切のあった場所
（1968 年に高架化）

★ 津島神社新嘗祭（秋縣祭）

新嘗祭（にいなめさい）は、稲の収穫を祝い、翌年の豊穣を祈願する古くからの祭儀で、天皇が新穀を天神地祇に供え、自らも食す祭事です。古くは陰暦 11 月の下の卯の日に行われましたが、明治以降は 11 月 23 日で固定され、現在は「勤労感謝の日」として国民の祝日となっています。

津島神社でも、一年の豊作を祈願する祈年祭（春縣祭）、6 月の例祭と並ぶ三大祭のひとつとして、新嘗祭（秋縣祭）が行われます。新嘗祭の祭事では、神前に新穀がお供えされ、五穀の神恩に感謝を申し上げた後、続いて、秋縣祭が執り行われ、居森社と柏樹社において、葭を用いた棚を設け頒幣と特殊神饌が供えられます。

Aichi Now HP より

あいちの農産物

愛知県園芸農産課 HP より

ぎんなんは、愛知の特産品のひとつで、稲沢市の祖父江を中心に古くから栽培され、出荷量は日本一です。タンパク質やカロチンを豊富に含み、栄養価も高く、せき止め、疲労回復などに効果があると言われています。

茶わん蒸し、おこわ、油で炒るなど、いろいろな食べ方があります。地元では、まんじゅう、もち、こんにゃくなどの加工品もあり、名産品として親しまれています。

●ブレイクタイム●

♪ 津島祭礼太鼓

津島市の太鼓づくりの起源は、約 1470 年前の津島神社の創建に由来すると言われ、岐阜県可児市の今渡神社には、永長元（1096）年に津島で作られた太鼓が残っています。津島祭礼太鼓の特徴は、牛皮のなめし方で、他の多くの産地が薬品によるのに対し、雑菌発酵により行います。これにより、弾力性のある太鼓皮を貼ることができ、雄大でずしっと響く鳴音が得られます。現在は、27 代 900 年以上続く 1 軒が残るのみですが、多種多様な太鼓が生産されています。

津島市 HP より

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html）をぜひご覧ください。

（発行：減斎の会・名古屋大学減災連携研究センター　2021 年 11 月）